

第 217 回
定例探鳥会

日 時：2005 年 1 月 9 日 (日) 天候：快晴
コース：高来神社 高麗山 八俣山 浅間山 (一等三角点)

天気予報では厳しい寒さになるといっていたのですが、思っていたよりも暖かく快晴の今年最初の定例探鳥会を迎えました。出発前の高来神社では境内の木にとまるシメ、イカルが見られました。遠くの高麗山の斜面を10羽くらいのイカルの群れが横切って行きます。集合時間前にはシロハラ、ジョウビタキ、クロジも見られて、今日の探鳥会への期待が膨らみます。

大堂で一休みしていると、木々の梢に囲まれた空間を飛び回る3羽のトビと8羽のヒメアマツバメが見られました。八俣山から浅間山へ向かう坂道では、アオキに絡まっている綿毛のようなものをシジュウカラが忙しくつついていました。スコープでよく見ると綿毛の中で黒っぽい毛虫のようなものがたくさん蠢いていました。人間の眼には気持ちの悪いものですが、シジュウカラにとってはご馳走なのでしょう。浅間山では20羽以上のカワラヒワの群れが木の梢を行ったり来たりしていました。今日の終点の一等三角点でもカワラヒワの群れ20羽くらいが見られました。ミヤマホオジロのきれいな を見た人もいましたが、定例探鳥会ではほとんど見られなくなった種類です。

2005年最初の定例探鳥会は素晴らしい天気恵まれ、多くの鳥たちを観察できました。この調子で今年一年も数多くの出会いを楽しみたいと思います。

参加者		参加人数 35 名 (敬称略)		
1. 下倉 紘一	2. 鈴木 逸子	3. 山田 文則	4. 岩崎 泰	5. 岩崎 秀美
6. 瀬尾 隆	7. 沢田 興三	8. 上野 尚博	9. 吉田 宣子	10. 室野 義晴
11. 赤井 啓吾	12. 小野 肇	13. 八木 正	14. 紺 龍彦	15. 加藤 卓也
16. 吉尾 孝	17. 鈴野 嘉久	18. 片倉 暹	19. 岩沢 晃	20. 岩沢 登茂子
21. 小磯 洋子	22. 重野 さち子	23. 松下 弓子	24. 富田 和之	25. 南 博
26. 伊藤 武雄	27. 清水 哲子	28. 小谷 茂雄	29. 大坂 英樹	30. 大坂 翔斗
31. 大坂 研人	32. (田端 裕)	33. (内山規矩雄)	34. (金子 典芳)	35. (岩佐 昌夫)

見聞きした鳥		種類数 26 種 (ドバトを含む)		
1. トビ	2. オオタカ	3. ノスリ	4. キジバト	5. ドバト
6. ヒメアマツバメ	7. コゲラ	8. アオゲラ	9. ヒヨドリ	10. ルリビタキ
11. ジョウビタキ	12. シロハラ	13. ツグミ	14. ウグイス	15. シジュウカラ
16. ヤマガラ	17. メジロ	18. ミヤマホオジロ	19. アオジ	20. クロジ
21. カワラヒワ	22. シメ	23. イカル	24. スズメ	25. ハシボソガラス
26. ハシボソガラス (カルガモ)	(カワウ) (オオバン)	(アオサギ)	(コサギ)	(マガモ)

()は八俣山から花水川をスコープで見た種類であり、定例探鳥会の記録には含めない。

吉沢・鷹取山の銃猟禁止にむけて

平塚市と大磯町の北西部に位置する吉沢から鷹取山にかけての地域は狩猟解禁地区になっています。こまたんではこの地域の銃猟の禁止を行政に訴えています。この活動の中で1月18日(火)に湘南行政センター担当部員を現地に案内し、現状を見てもらう機会がありました。

猟犬3頭を連れた4名の狩猟グループの他に、自然観察のグループと市内の幼稚園児の自然体験グループと出会いがあり、こまたんの要望書に記載されている状況を見聞してもらいました。

後日に届いた情報では、幼稚園児たちの自然体験の場になっていることを実際に見聞きしたことが相当大的なインパクトを与えたようです。湘南行政センターの担当者のレベルでは、平塚・大磯西部丘陵地帯が多く野鳥が生息する場だと認識したようで、鳥獣保護地域に指定しても良いくらいだと感じているようです。少しの期待は持てるかなと感じますが、まだまだ地道な活動で訴え続けていく必要があると思われます。皆様のご協力をお願いいたします。

映画の中のアオバト

“日本が大きく変わった明治維新。幕藩体制は終わりを告げ、四国淡路島に暮らしていた稲田家主従は明治政府から北海道への移住を命じられる。北海道へ辿り着いた移民団546名は過酷な自然と闘い続けるが、やがて希望は絶望へと変わっていくのであった” これは今話題の映画「北の零年」の宣伝ですが、この映画の中でアオバトの声が聞かれますので紹介します。

冒頭のシーンからヒバリのさえずりが流れ、姿も出てきます。鳥好きにとって期待ができると、鳥の声・姿に注意しながら見ていました。流れてくる鳥の声は何かと考えながら映画を見るのも楽しいものです。舞台は北海道の大自然の中で、期待通りにいろいろな鳥の声が聞かれました。フクロウ(シマフクロウ?)、ヨタカ、カッコウ、センダイムシクイ等々が確認できました。アオバトの声は、夏の二つの場面で、サラウンドシステムの後ろのスピーカーから聞こえてきました。主演の吉永小百合さん、豊川悦司さん、渡辺謙さんも聞いたのか確認したいですね。

肝心の映画の方は3時間の大作ですが、時間の経つを感じさせない評判どおりの内容でした。北海道の大自然に負けずに吉永小百合さんは相変わらず美しかったです。

【お知らせ】

湘南桜ヶ丘幼稚園・花水川探鳥会

2月15日(火)および2月18日(金) 10時から11時過ぎ頃まで(予備日2/22)

9:45に幼稚園玄関前に集合(花水橋～高麗大橋間の平塚側)

幼稚園の子供たちと水辺の散歩を楽しみましょう。平日ですが望遠鏡をお持ちの方の応援をお願いします。もちろん園児と一緒に観察の参加も歓迎です。

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 3月5日(第1土曜日)

鷹取山 3月12日(第2土曜日)

午前7時に、高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合。

午前中に解散(吉沢・土屋コースは13時頃になる可能性があります)。雨天中止

問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

「干潟を守る日 2005」キャンペーン

1997年4月14日は、長崎県の諫早湾が干拓事業のため閉め切られ、広大な干潟とそこに棲む生き物たちが消滅することになった日です。1998年春に4月14日を「干潟を守る日」とすることが宣言されました。1999年から「干潟を守る日」全国キャンペーンが始まり、潮干狩りや春の渡り鳥のシーズンのこの時期に、干潟・湿地の保全を求める行動を、各地の自然保護団体が協力して行おうというものです。こまたんも昨年と同様にこのキャンペーンに参加を申し込みました。4月24日(日)に花水川をゆっくり歩き、川岸や洲にいる渡る前の冬鳥、渡ってきた鳥を観察する探鳥会を行います。「干潟を守る日 2005」のチラシの配付、鳥のクイズやビンゴも計画していますが、詳しいことは次号以降でお知らせします。

なるほど・ザ・野鳥 (No.14)

野鳥たちのふしぎな行動や生態のおもしろい話をインターネットなどから集めています。それの中から一つか二つずつを紙面に余裕があるときにこのコーナーで紹介していきます。

(16) 脅威の超能力！ - 渡り鳥の方向判定法

渡り鳥は毎年何千キロもの遠い距離を誤りなく飛んで目的地に着きます。人間ならば磁石や天体観測の道具や正確な時計、天体運行表、地図その他、いろいろなものを使わないと、目的地にとっても到達できそうもありません。それを渡り鳥は何も持たずにやってのけるのですから、まったく驚くべき超能力というほかありません。こうした渡り鳥の方向探知能力についていろいろな実験、研究が行われ、次のことがわかってきました。

1. 生まれながらの方向感覚

渡り鳥は決まった時期(春とか秋とか)になると、例えば北とか、東北とか、あるいは南へとか、一定の方向に向かって移動しようとする衝動が起きます。これは先祖から代々受け継いだ生まれながらの本能です。

2. 地形による方向判定

一度通った河川、海岸線、山などの地形をよく記憶していて、方向を判定する。しかし、ガン、カモなどが夜間飛行しているときは地形は方向判定にそう役立っていないことも判明した。

3. 星座や太陽の位置を基準にして方向判定

プラネタリウムや太陽の光線の方向を人工的に変える特殊装置で実験したところ、鳥は星座や太陽の位置によって飛ぶ方向を定めることがわかった。

4. 地磁気によって方向を判定

磁場の方向を変化できる特殊装置で調べたところ、明らかに鳥は磁場の変化に対応して方向を判定することが判明した。

5. 正確な体内時計

太陽や星座、磁石で方角を知っても、正確な時間的な感覚がなければ、自分の位置を知り、飛行方向を定めることはできませんが、鳥類がそうした時間感覚の持ち主であることも確かです。

6. 総合的能力

結局渡り鳥は、以上述べたいろいろな能力や本能感覚の総合したもので、誤りなく方向判定をする、と考えられています。

鳥 報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

アオバト情報

冬のアオバト情報

12月上旬 新潟県小千谷市。柿の木に1羽が止まっていた(NHK-TVの番組の中で画面に映る)

1/5 大磯町虫窪。雑木林から3羽が飛び出す

1/15 京都御苑。池のほとりで5羽がドングリを食べていた。他の場所でも10羽がドングリを食べていた

1/24 大阪府枚方市・山田池公園。今冬の最大は12羽を確認。ドングリを食べている

花水川・平塚大橋のサギねぐら調査

観察日	コサギ	ダイサギ	アオサギ	ゴイサギ	サギ合計	ムクドリ
1/3	7	1	2	2	12	約5000
1/5	5	2	2	0	9	約6000
1/7	3	1	1	2	7	約6000
1/10	9	1	0	0	10	約3500
1/12	7	0	2	0	9	約3500
1/13	0	2	1	0	3	約1100
1/14	0	1	1	0	2	約1500
1/17	4	1	0	0	5	約1500
1/21	2	0	0	0	2	約1500
1/24	2	1	1	0	4	約300
1/26	1	0	1	0	2	約400
1/28	2	0	2	0	4	0
1/31	1	0	4	0	5	約100

その他の野鳥情報

タゲリ : 1/13 平塚市片岡、畑地に1羽がいた。すぐ側にはケリ1羽もいた

クマタカ : 1/21 宮ヶ瀬・早戸川林道、2羽が上空を舞う

ベニマシコ、カヤクグリ : 1/21 宮ヶ瀬・早戸川林道、ベニマシコ15羽、カヤクグリ4羽

ハジロカイツブリ、アカエリカイツブリ、カワアイサ、ウミアイサ : 1/22 酒匂川(神奈川支部探鳥会において)

アトリ : 1/28 平塚市吉沢、30羽の群れ

ヤマセミ : 1/28 宮ヶ瀬・早戸川林道、2羽が低い枝に止まっていたが、キャラッと鳴いて湖面すれすれを飛ぶ

ミヤマホオジロ : 1/28 宮ヶ瀬・早戸川林道、1羽、12羽くらいのホオジロの群れの中にいた

ハギマシコ : 1/31 宮ヶ瀬・早戸川林道、30羽が崖の斜面に降りる

ツリスガラ : 2/5 平塚市土屋、谷戸で8羽を確認

キンクロハジロ、ハシビロガモ : 1/末 平塚市豊田付近の鈴川、ハシビロガモは

ミコアイサ : 日時不明、相模川・水辺の楽校付近、1羽

次回の定例探鳥会は2005年3月13日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第216号 / 2月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp/>

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>